

八尾歴史物語

八巻

河内名所図会を訪ねて その2



右の絵は、何をしている場面
か分かりますか。よく見ると左
側の人たちは何かを掘り出して
います。掘り出された土器や勾
玉、管玉らしきものを見ている
人もいます。

これは、河内名所図会の「郡
川のほとりの千塚」の場面で、
古墳から副葬品を掘り出してい
る様子を描いたものです。「千塚」
の説明にも「窟中（※石室）よ
り陶器の品類あるひは金環、鉄
針、鍔石の類（※副葬品）出る」
とあり、江戸時代の高安古墳群
で副葬品を求めた乱掘が行われ
ていたことが分かります。

明治時代に入ると、名所図会
を参考にして、高安古墳群を研
究しようとする人々が訪れるよ
うになります。東京の大森貝塚
を発掘調査したエドワード・シ
ルベスター・モースや、古墳研
究の父と言われるウィリアム・
ガウランドなど外国人研究者が
石室の実測などの調査を行い、
日本を代表する遺跡の一つとし
て、海外に紹介しました。

外国人研究者の調査は、日本
人の考古学者にも影響を与え、
東京人類学会を創設した坪井正
五郎や藤井寺市国府遺跡の発見
者で後に地理学者となる山崎直
方など日本考古学の発展に重要
な役割を果たした人物らも、高
安古墳群に関心を寄せました。

名所図会では、洞穴のように
見えました。が、横穴式石室の位
置を正確に描いており、作者の
秋里籬島は、絵師とともに実際
に現地を訪ねたようです。現地
への探訪意欲をかき立てる正確
な最新情報こそが、名所図会の
人気の理由だったのです。